劇場による地域文化向上プロジェクト報告書 2018-21年度

愛知県芸術劇場
（公益財団法人愛知県文化振興事業団）

助成　文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会　文化庁

一般財団法人地域創造

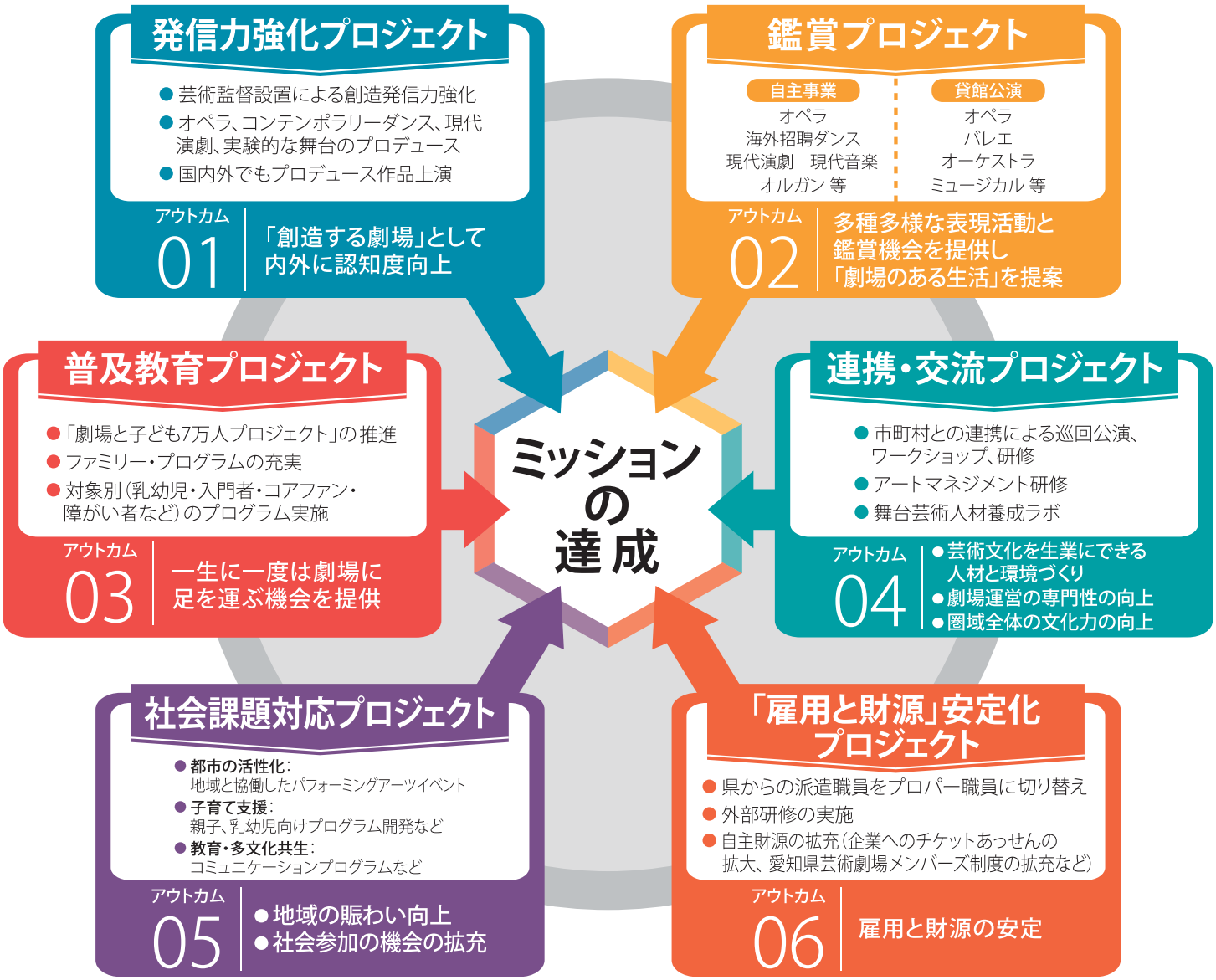
はじめに

愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）の「劇場による地域文化向上プロジェクト」は、全国16館に文化庁が助成する「劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業※」のひとつとして2018年度に採択された。当劇場は本プロジェクトに沿って18年度から助成対象事業を含めた自主事業を実施。ダンス、音楽、演劇などの事業を通して、子どもから大人まで幅広い観客に支持されることはもちろん、芸術文化の普及、人材の育成、地域交流の促進、地域の活性化などを劇場のミッションに位置づけ、その実現に向けて下記の6つのプロジェクトを推進してきた。4年間の後半は新型コロナウイルスの感染拡大による困難を経験したが、これまでの蓄積から苦楽を分かち合えた劇場や文化施設、芸術文化団体は多く、ネットワークが一層強化された。今後も当劇場は地域全体の文化力を高めながら国際プレゼンスの強化に努め、ひいては日本の更なる芸術振興に貢献していく。本誌では18から21年度を振り返り、成果を報告する。

愛知県芸術劇場

※我が国のトップレベルの劇場・音楽堂が自ら強み・特色を活かし、我が国の実演芸術の水準向上、並びに地域コミュニティの創造及び再生をはじめとする様々な社会課題の解決を目指す戦略的な事業計画（5年間）に対して支援する助成事業

愛知県芸術劇場が掲げた6つのプロジェクト



国内外に芸術文化を創造・発信し、プレゼンスを高める

当劇場は、プロデュース公演の全国展開に注力してきた。ダンス、音楽、演劇などで新作をプロデュースし、県内外の劇場で上演。海外の劇場に招聘され、愛知から世界への創造・発信も実現した。2018年度には単独では難しい大規模公演を国内の先進劇場と共同制作。テレビ局との官民協力が生まれたのも収穫だった。18から19年度には日本・香港・オーストラリアの国際共同製作プロジェクトにも参加。国境だけでなく、ジャンルも横断する新しい創作を国内外に発信した。また、当劇場が位置する愛知芸術文化センター内の愛知県美術館とも連携して両施設でパフォーマンスを発表。他の劇場や組織とも定期的・継続的に情報共有しながらネットワークを強化し、水準の高い事業を効率的に実施してきた。20年度からは国際的アーティストの勅使川原三郎が芸術監督に就任し、初年度には就任記念シリーズ3作品を公演。奇しくもコロナ禍による休館明け初の自主事業として、象徴的な再開を印象づけた。「世界への窓」として、海外と地域をつなげる総合的な事業を展開し、当劇場の国際プレゼンスを高めている。

アウトカム指標 プロデュース作品の制作と県内外での上演

年　度	2016	17	18	19	20	21
実　績	1公演	8公演	28公演	7公演	12公演	9公演

指　標=4公演以上
※2016年度より計測

掲載された広報履歴の総数　※1 2022年2月現在

年　度	2017	18	19	20	21
告　知	160	123	107	122	149
記　事	164	250	327	175	266
広　告	95	89	78	86	98
その他	32	21	28	21	16
合　計	451件	483件	540件	404件	529件※1

告知…開催告知・募集情報等の無料掲載
記事…開催前・後にライターや記者が書いた無料の掲載記事
広告…有料で掲載された媒体　その他…属さないもの
※2017年度より計測

2018年度

独自にダンスやオペラ、音楽、演劇などの作品をプロデュース。過去作品の再演も含め、全国に向けて創造・発信した。単独では難しい大規模公演を国内の先進劇場と連携して共同で制作・招聘。以降、他の地域・劇場とのネットワークも強化され、より効率的に高水準の事業を展開。

世界的なバレエダンサーと音楽家による公演を製作、東京ほか県外に作品を届けた

ダンス・コンサート『Stars in Blue』
2019年3月17日
愛知県芸術劇場コンサートホール

世界的ダンサーと音楽家が共演する当劇場オリジナルのシリーズ第3弾にマニュエル・ルグリが参加。パリ・オペラ座バレエ団を経て、当時はウィーン国立バレエ団芸術監督であったルグリを含む海外ダンサー4人と、愛知県安城市出身のピアニスト・田村響らが共演した。当劇場、東京芸術劇場、株式会社ザ・シンフォニーホール（大阪府）、メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）の国内4都市ツアーが実現した。

©瀬戸秀美

©羽鳥直志

上演される機会の少ないオペラが、実力派ソリストたちを起用する形で実現

W.A.モーツァルト作曲 オペラ『バスティアンとバスティエンヌ』
2018年11月16日・17日
愛知県芸術劇場小ホール

©羽鳥直志

モーツァルトが12歳の頃に作曲したという上演の希少なオペラを、実力派かつ東海圏ゆかりのソリストなどを起用して披露。三重県出身の伊藤晴、愛知県在住の中井亮一らが出演し、名古屋市出身の角田鋼亮がタクトを振り、管弦楽は愛知室内オーケストラが務めた。なお、関連事業を県内市町村劇場と連携。オペラの普及啓発にも注力した。

©羽鳥直志

上記に加えて開催（18年度）

静岡×愛知、東海圏の県立劇場が共同で演劇を企画。全国6つの劇場をツアー公演。
愛知県芸術劇場・SPAC−静岡県舞台芸術センター 共同企画『寿歌』

2016年度に初演後、国内5つの都市で上演されたダンス&ラップを凱旋公演。その後さらに県外で2都市、パリ公演につながった。
島地保武×環ROY『ありか』　ほか

01 | 発信力強化プロジェクト

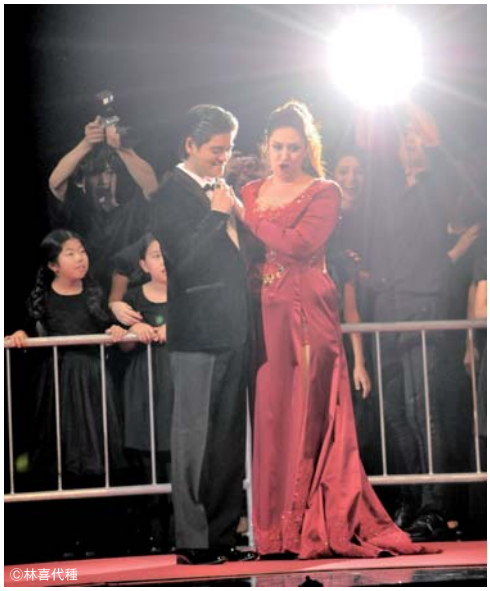
19年度

大規模な新制作オペラを国内先進劇場と実演家団体と連携して実施。また、当劇場が位置する愛知芸術文化センターの複合施設という面を活かし、愛知県美術館と演劇『ムンク | 幽霊 | イプセン』を制作。両施設を横断する作品が誕生した。

7つの芸術団体が主催するオペラを共同制作し、国内3都市をツアー公演

グランドオペラ共同制作
ビゼー作曲『カルメン』
2019年11月2日･3日
愛知県芸術劇場大ホール

神奈川県民ホール、札幌文化芸術劇場 hitaru、東京二期会、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団と当劇場、計7団体の共同で全4幕のグランドオペラを新制作。指揮･キャストには国内外のアーティストが集結。演出家･田尾下哲の手腕のもと、神奈川･北海道･愛知ツアーが実施された。


©林喜代種

©林喜代種

©林喜代種

芸術文化複合施設の特性を活かし、劇場と美術館を横断するパフォーマンスを提供

第七劇場 × 愛知県芸術劇場 ×
愛知県美術館『ムンク | 幽霊 | イプセン』
◉美術館パフォーマンス
2020年1月8日～13日
愛知県美術館［コレクション展］展示室4
◉劇場パフォーマンス
2020年1月10日～13日
愛知県芸術劇場小ホール

愛知芸術文化センターには当劇場と愛知県美術館がともにあり、複合施設の特性を活かした共同制作に挑戦。美術館がムンクの絵画《イプセン『幽霊』からの一場面》を所蔵したことに端を発するコラボレーションは、演出家･鳴海康平（劇団「第七劇場」主宰）が加わって具体化。近代劇の祖であるイプセンの戯曲『幽霊』を題材に、ムンクとイプセンの関係性をテーマに、美術館展示室と当劇場小ホールで異なる形式のパフォーマンスを上演した。

©羽鳥直志
◉劇場パフォーマンス

◉美術館パフォーマンス
人物の右に写っているのが、
ムンク《イプセン『幽霊』からの一場面》

上記に加えて企画（19年度）

ダンスと音楽のコラボレーション公演を当劇場プロデュースし、国内外に発信する企画。
勅使川原三郎×佐東利穂子×庄司紗矢香『三つ折りの夜』
※新型コロナウイルスの影響により公演中止。

(2020~21年度)
芸術監督事業

世界的なダンサー・振付家・演出家の勅使川原三郎が2019年度の愛知県芸術劇場アドバイザーを経て、20年に当劇場初の芸術監督に就任。就任記念シリーズの3作品はいずれも反響を呼んだ。以降、監督のネットワークも活かした連携事業が計画され、国際プレゼンスの向上を図っている。

©羽鳥直志

国際的に活躍する芸術監督のダンス公演は全公演チケット完売

勅使川原三郎芸術監督
就任記念シリーズ
『白痴』
2020年7月17日~19日
『調べ―笙とダンスによる』
12月4日~6日
『ペレアスとメリザンドーデュエット版ー』
2021年2月21日~23日
愛知県芸術劇場小ホール

芸術監督就任記念シリーズは、ドストエフスキーの『白痴』を題材にしたデュオダンスで幕開け。コロナ禍からの劇場再開と重なり、象徴的な舞台となった。同時期には監督のドローイング展を同センター内の展示スペースで開催。芸術監督の多才さと美術館を有する同センターの複合性との好相性も示せた。続く、第2弾『調べ―笙とダンスによる』では国際的音楽家・宮田まゆみ(笙)とコラボレーション、第3弾『ペレアスとメリザンドーデュエット版ー』はドビュッシー作曲のオペラを題材に新作ダンスを製作。コロナ禍でありながらも全公演が完売したため、地域における期待値が伺えた。

©羽鳥直志

©羽鳥直志

観客からの声

2020年度
『ペレアスとメリザンドーデュエット版ー』より

「とても緊迫した時間をみんなで共有できた気がします。指先から足先まで神経の行き届いたお二人のパフォーマンスは素晴らしいとだけではとても言い表せない程で、神々しさを感じました。こんなに集中して観るのは初めてと言っていいほど、息詰まる時間を過ごせました」 (70代・女性)

2021年度『羅生門』より

「ダンスは最高水準で、さすがと感じたが、同時に、美術、照明、演出も際立っていた。大変感動いたしました」 (60代・男性)

「ダンスははじめて見ました。素人なため正しく受け取れたかは分かりませんが、ステージから研ぎ澄まされた芸術の迫力と力を感じました。機会があれば、またこのような公演を観たいと思いました」 (30代・女性)

©羽鳥直志

芸術監督と国際的に活躍するバレエダンサーが日本の文学作品に挑んだ

勅使川原三郎版『羅生門』
陽は落ち 朽ちて崩れた門
死体が重なる 鬼が笑う
2021年8月11日
愛知県芸術劇場大ホール

©羽鳥直志
稽古風景

ドイツのハンブルク・バレエ団からアレクサンドル・リアブコを迎え、芥川龍之介の小説を題材に、芸術監督の新作ダンス『羅生門』を世界初演。監督はこれまでに宮沢賢治をはじめ文学作品を扱ってきたが、海外ダンサーと日本文学に取り組むのは大きな挑戦となった。出演者の佐東利穂子がアーティスティック・コラボレーターも務め、リアブコとはオンラインで創作開始。来日から帰国までコロナ対策を徹底して公演を無事終えた。コロナ禍における国際的活動の成功は、他の芸術文化団体にも影響を与えている。

上記に加えて開催(20年度)

インドネシアの伝統音楽を取り入れながらタイで活躍する日本人演出家・篠田千明が、コロナ禍でも国際的な公演を実現。
第18回AAF戯曲賞受賞記念公演『朽ちた蔓延る』 ほか

01 | 発信力強化プロジェクト

21年度

コロナ禍における情報の蓄積は、感染症対策だけでなく新しい創造・発信にも活用。劇場で公演を、オンラインでアーカイブ配信を行った。また、横浜と愛知で創作と発表を分担する新たなプラットフォームが誕生。連携して両都市での公演を実現させた。

劇場公演とオンライン配信のハイブリッドで開催し、コロナ禍における新たな鑑賞スタイルを模索した

第19回AAF戯曲賞受賞記念公演『ねー』
2021年11月21日～23日
愛知県芸術劇場小ホール

上演を前提とした戯曲賞「AAF戯曲賞」では、後世に残すべき戯曲・劇作家の発掘を目指し、公募を通じて選出している。2019年度には全19回開催のうち応募が136作と過去最多数を記録し、堅実な活動の結果が表れた。また、翌年度以降に開催される受賞記念公演はコロナ禍で有料配信も行っている。

©羽鳥直志

左から受賞者の小野晃太朗、演出の今井朋彦

横浜と愛知でダンスを創作する新プラットフォームが、当劇場との連携で公演も実現

愛知県芸術劇場×
Dance BaseYokohama（DaBY）
「ダンスの系譜学」
2021年10月1日～3日
愛知県芸術劇場小ホール

「DaBYアソシエイトコレオグラファー
鈴木竜 トリプルビル」
12月3日～5日
愛知県芸術劇場小ホール

©羽鳥直志

©羽鳥直志

ダンス環境の整備と人材育成のために設立された「Dance Base Yokohama：通称DaBY（デイビー）」では当劇場の唐津絵理エグゼクティブプロデューサーがアーティスティック・ディレクターを務めている。21年度より連携公演をスタートさせ、「ダンスの系譜学」では、振付の継承と再構築をうたって3人のダンサーが名作と対峙。3本立ての内の1作品では劇作家・演出家としても国際的に活躍する岡田利規が演出・振付を手掛け、異彩を放った。また、鈴木竜による3本立ての内の1作品では、東海圏唯一のコンテンポラリーダンスに特化したプラットフォーム「ダンスハウス黄金4422」と連携。名古屋市で創作が行われた。

海外発信

日本・香港・オーストラリアの国際共同製作では、映像とライブの並行展開、愛知・横浜ツアーなど、横断・連携が実現。また2016年度のプロデュース作品が着実に国内ツアーを重ね、19年度にはパリ日本文化会館（仏）から招聘され、海外発信が実現した。

香港・オーストラリア・日本の国際共同製作が、ダンスの映像・ライブで世界を横断

ON VIEW『Portraits of Dance Artists』
Sue Healey Video Installation Exhibition
2020年2月5日～16日
愛知芸術文化センター アートスペースX

国際共同製作プロジェクト
『ON VIEW:Panorama』Live Performance
2月7日～9日
愛知県芸術劇場小ホール

横浜赤レンガ倉庫で公開されたインスタレーションの様子

©羽鳥直志
名古屋市市政資料館の撮影風景

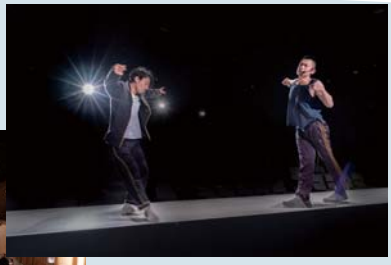
振付家・映像作家のスー・ヒーリー（オーストラリア）を中心としたプロジェクト「ON VIEW」は、映像を通してダンサーと観客の境界線を探求しながらショートフィルム製作・インスタレーション展示・ライブパフォーマンス製作を並行展開。また、名古屋学芸大学映像メディア学科とも連携した。日本・香港・オーストラリアから集まったダンサーに、黄金4422代表・浅井信好も参加。2018年度に当劇場の企画制作で名古屋市内の名所で撮影されたショートフィルムはウェブで世界に配信。19年度にライブパフォーマンスは城崎国際アートセンターで製作され、横浜で世界初演を迎えた後、愛知で上演。その後の国際ツアーは新型コロナの影響で中止となったものの、香港・オーストラリアが主体でオンライン配信を行った。

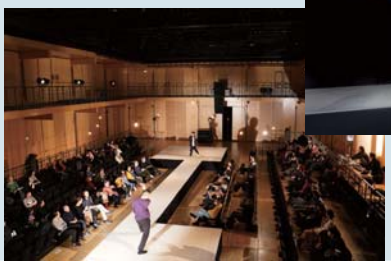
過去のプロデュース作品が国内で公演を重ね、ついに芸術の都フランス・パリへ！

ダンスとラップ
観念を揺さぶる―生まれ変わる
島地保武×環ROY『ありか』
2018年6月23日・24日
愛知県芸術劇場小ホール

【フランス公演】
2020年3月13日・14日
パリ日本文化会館大ホール

2016年度に新製作した『ありか』は県内外での再演を重ね、18年度には県内の小・中学生を対象に学校招待公演とワークショップを実施。出演はウィリアム・フォーサイスのもとで活躍したダンサー・振付家の島地保武と、サカナクション等のコラボレーションで知られるラッパーの環ROY。コロナ禍直前には、パリ日本文化会館から招聘されて海外公演も実現。21年度には国際交流基金の企画により日本語が英・仏・露・中（繁体・簡体）・西語翻訳されたオンライン配信も実施された。




提供:パリ日本文化会館

優れた舞台芸術の鑑賞の場を提供し、人々に親しまれるために

鑑賞事業は多種多様な表現活動と鑑賞機会を意識し、ポピュラーな作品から先鋭的な作品まで上演した。中でも当劇場が注力している「海外ダンス招聘」では、2019年度にNDT（ネザーランド・ダンス・シアター）の13年ぶりの来日公演を開催し、大きな反響を呼んだ。また、同年のローザスの来日公演は、東京と共同招聘でツアーを実施。民間や公立が単独では難しい大規模公演を、全国の先進劇場や官民との連携により企画・交渉し、実現させた。

18年度には、コンサートホールとパイプオルガン改修工事終了のリニューアルオープンに伴い、当劇場初の専属のオルガニストとして豊田市出身・在住の都築由理江を迎え、演奏・企画・人材養成・メンテナンスと、多方面に渡るサポートも得られた。オルガン公演の動員は堅調で、子どもから大人まで多くの人が来館。音楽公演では他にも、オペラやオーケストラのコンサートが熱い支持を受けている。また、演劇ではAAF戯曲賞受賞作家のその後を紹介する公演が複数実現。現代音楽の分野では国内外で活躍するアーティストによる貴重なステージを提供した。

アウトカム指標 大ホール公演における入場者率【ダンス・オペラ】

年　度	2016	17	18	19	20	21
実　績	62.0%	65.2%	改修工事中	64.2%	84.5%	59.0%

指　標=70.0%

アウトカム指標 年3回以上の来場者率

年　度	2016	17	18	19	20	21
実　績	38.4%	29.7%	35.6%	27.8%	52.2%	52.0%

指　標=30.0%

アウトカム指標 利用者満足度調査平均点

年　度	2016	17	18	19	20	21
実　績	3.7	3.66	3.59	3.74	3.83	3.82

指　標=3.7

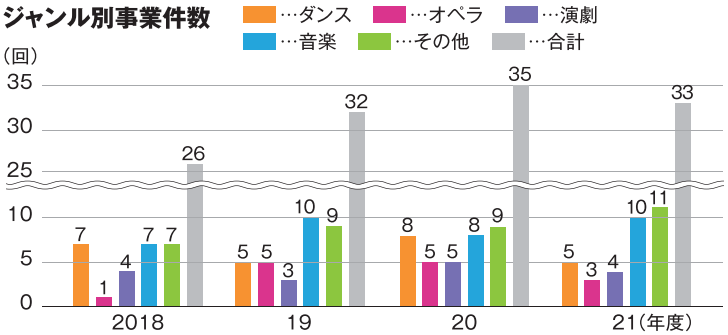
公演の満足度

年 度	2018	19	20	21
実 績	96.3%	96.2%	100%	94.1%

満席率

年 度	2016	17	18	19	20	21
実 績	62.9%	74.7%	74.2%	74.7%	67.5%	61.5%

ジャンル別事業件数



海外招聘ダンス

世界屈指の人気ダンスカンパニーやダンサーが続々来日。大規模な海外招聘公演も、全国の先進劇場との共同制作や県内劇場との共催などにより困難な問題をクリアしてきた。現代のダンスシーンをリードする気鋭ばかりだが、いずれも大好評で、鑑賞者の裾野拡大にも貢献している。

過去の公演でチケットが完売。ベルギーを代表するカンパニーは多くの観客から再来日が強く望まれた

ローザス
『A Love Supreme ～至上の愛～』
2019年5月17日・18日
名古屋市芸術創造センター

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル率いるベルギーのカンパニー、ローザスは愛知でも大人気。ジョン・コルトレーンのジャズを視覚化した作品に観客は熱狂した。東京芸術劇場との共同招聘、文化振興を図るための連携・協定を結んでいる名古屋市芸術創造センターにて公演。ワークショップも実施し、貴重な人材養成の場も設けた。

©羽鳥直志

当劇場のアンケートで最も支持があったオランダのダンスカンパニーが13年ぶりに来日。全国から当劇場へ

NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）
『Shoot the Moon シュート・ザ・ムーン』『Woke up Blind ウォーク・アップ・ブライインド』
『The Statement ザ・ステイトメント』『Singulière Odyssée サンギュリエール・オデッセイ』
2019年6月28日・29日
愛知県芸術劇場大ホール

1970年代にイリ・キリアンが芸術監督就任以降、爆発的な人気を誇るネザーランド・ダンス・シアターが13年ぶりに来日。NDT横浜実行委員会（神奈川）との共同招聘、オランダ王国大使館の協力で50人ものダンサーらの来日が実現した。当劇場では学生団体鑑賞が入り、普及教育にもつながった。

©羽鳥直志

オランダ大使館で行った記者会見の様子

©羽鳥直志

『Singulière Odyssée シンギュリア・オデッセイ』

あいちトリエンナーレを契機に人気を博したフラメンコダンサーが18年度とコロナ禍の21年度に登場。“奇跡の来日”とSNSで話題に。

イスラエル・ガルバン
『黄金時代』
2018年11月2日・3日
名古屋市芸術創造センター

『春の祭典』
2021年6月23日・24日
愛知県芸術劇場コンサートホール

現代フラメンコのスター、イスラエル・ガルバンは2度登場。『黄金時代』は連携する名古屋市芸術創造センターで公演。「久屋ぐるっとアート」（P21～参照）と連携し、屋外でフラメンコを踊るイベントを開催するなど多角的な普及も図った。ダンスハウスDaBYと連携した『春の祭典』はダンス・コンサート（P3参照）の一環として若き日本人ピアニストと共演。コロナ禍の海外招聘はSNS上で「奇跡の来日」と称され、注目を浴びた。

©羽鳥直志

©羽鳥直志
『黄金時代』

©羽鳥直志
『春の祭典』

上記に加えて企画
（ダンス）

英国ロイヤルバレエ団のプリンシパルが出演する
オーストラリアのアートフェスティバルで受賞した作品を上演
ナタリア・オシポワ／メリル・タンカード『Two Feet』

イスラエルを拠点にした世界的ダンスカンパニーの
4年ぶりの愛知公演
バットシェバ舞踊団『HORA』　ほか

※ともに新型コロナの影響により中止。

オペラ

日本で最も長い歴史を誇るオペラ団体、藤原歌劇団の愛知公演が定着。また、日生劇場とも連携し、東海圏の観客に上質なグランドオペラを提供してきた。演目には、世界中で愛される古典の名作を選んで毎回好評。初めて観る初心者からオペラファンまでを満足させている。

日本で歴史のあるオペラ団体・劇場による公演。愛知にゆかりのあるソリストたちも出演。人気を博す

藤原歌劇団オペラ
『リゴレット』
2020年2月8日

『ラ・ボエーム』
2021年2月6日

『イル・トロヴァトーレ』
2022年2月5日
愛知県芸術劇場大ホール

NISSAY OPERA 2021
オペラ『ラ・ボエーム』
2021年10月30日
愛知県芸術劇場大ホール

藤原歌劇団オペラ『イル・トロヴァトーレ』

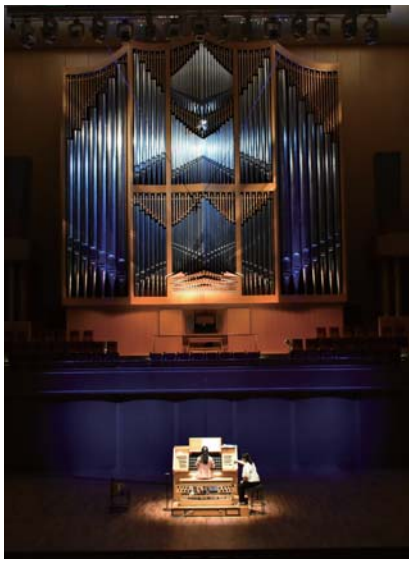
藤原歌劇団は2016年度以来、年に一度の当劇場公演が定着（改修工事中の18年度除く）。21年度は日生劇場の「NISSAY OPERAシリーズ」の愛知公演も開催。国内外の実力派歌手やスタッフが参加してきた。コロナ禍にも継続できたことで国内のオペラ制作を後押し。21年度は学生招待公演も実施した。

©中川幸作
NISSAY OPERA 2021 オペラ『ラ・ボエーム』

オルガンシリーズ

当劇場のパイプオルガンは日本最大級を誇るとともに、そのコンサートシリーズは安定した動員で地域からの支持を証明してきた。2021年度からは対象年齢や目的を分けた5つの企画を展開し、あらゆる観客層を取り込んでいる。

※会場はすべて愛知県芸術劇場コンサートホール



オルガン入門から初級へのステップアップのために、本格的な曲を1時間で

オルガン・アワー

2021年度から始まった新企画。オルガンを聴いたことのある人に向け、ステップアップを促す。副題に「音のシャワーで心リフレッシュ」と唄った初回はJ.S.バッハをはじめ、ムソルグスキー、ベートーヴェン、ワーグナーほかの多彩な曲が並んだ。

THE オルガンDAY

オルガンの入門コンサート。ワンコイン・45分で魅力に触れられる

THE オルガンDAY&NIGHT

【大人向け】THE オルガンNIGHT
【幼児／子ども向け】THE オルガンDAY

「THE オルガンNIGHT」は大人向けとして、仕事帰りに立ち寄れる夜の公演。翌日の「THE オルガンDAY」は幼児向けを午前に、子ども向けを午後に開催。上演時間45分・料金500円の気軽さは、幅広い層のオルガン入門につなげられた。

ロマンティックな曲から、季節に合わせた本格的な曲が人気

クリスマスはオルガンだ!

クリスマスシーズンはニーズが高く、2020年度はコロナ禍にも関わらず完売。追加公演を開催し、翌年度から1日2回公演とした。幻想的な本格的なオルガン曲からポピュラー音楽のオルガンアレンジまで、プログラムにも工夫を凝らしている。

©中川幸作

オルガンを学べる・聴けるコンサート。楽しみながら歴史や楽器の知識も高まる

オルガン・レクチャーコンサート

音楽を鑑賞しながら、同時にオルガンという楽器の特徴や歴史、曲目や作曲家などを学べるコンサート。奏者がトークも行い、スクリーンを使いながらわかりやすく解説する。

オルガン愛好家に向けて、世界的なオルガニストが迫力満点の演奏を披露

オルガン・スペシャルコンサート

国際コンクールで受賞しているベテランの世界的オルガニストによる本格的なコンサート。幅広いレパートリーを持つオルガニストたちが当劇場のオルガンの魅力を最大限に発揮した。2018年度にロシア、19年度にイタリア、20年度にイギリス、21年度にフランスのオルガニストの招聘コンサートを企画。

※20・21年度は新型コロナの影響により中止。

オーケストラ

日本を代表するオーケストラのNHK交響楽団による愛知県芸術劇場シリーズは、開館初期の1997年度に始まって以来、愛知はもとより東海圏のクラシックファンを大いに満足させてきた。世界的指揮者・演奏家を共演に迎えることも多く、他ではなかなか聴けないプログラムを定期的に提供できた。

熱烈な定期演奏会の希望が後を絶たない、世界が認めたサウンドを堪能する

NHK交響楽団定期演奏会（愛知県芸術劇場シリーズ）

愛知県芸術劇場コンサートホール

当劇場におけるN響の定期演奏会は1997年度に始まり、現在まで年に一度のペースで開催されている。世界的な指揮者を迎える公演が多く、2019年度に好評を博した指揮者ファビオ・ルイージは、首席指揮者の就任が決定した21年度にも再来日を果たし、観客を喜ばせた。

現代演劇

当劇場では国内の優れた劇団を招聘し、常に現代演劇の最先端を紹介してきた。2021年度に20回の節目を迎えたAAF戯曲賞を巡っては、新人発掘にとどまらず受賞者のその後の活動も注視。好機があれば愛知公演の制作支援をする一方、当地の観客にも質の高い舞台を提供した。

©羽鳥直志
『波のような人』

AAF戯曲賞受賞後も、受賞作家の現在が観られる機会を提供

地点『忘れる日本人』
2018年7月13日～15日

ヌトミック『ワナビーエンド』
11月2日～4日

かもめマシーン『俺が代』
2019年4月19日･20日

ヌトミック+細井美裕『波のような人』
2021年4月27日･28日
愛知県芸術劇場小ホール

第16回AAF戯曲賞を受賞した額田大志の率いるカンパニー「ヌトミック」が、2018年度と21年度の2回に渡って新作を発表。21年度の『波のような人』は、愛知県岡崎市出身で第23回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞を受賞したサウンドアーティスト･細井美裕とコラボレーション。当劇場での滞在制作と、話題の多い公演となった。19年度には、第13回AAF戯曲賞を受賞した萩原雄太の主宰する劇団「かもめマシーン」が、代表作『俺が代』を携えて登場した。

©羽鳥直志
『俺が代』

上記に加えて企画（現代演劇）
小津安二郎の映画『お早よう』をモチーフにした人々の生活から「東京」を描く演劇
マレビトの会『グッドモーニング』（公演中止）ほか

現代音楽

現代音楽の鑑賞事業は幅･クオリティが極まった。海外でも紹介された日本の宗教音楽「聲明」、世界的な弦楽四重奏団とダンサーのコラボレーション、そしてオランダ在住の多才なアーティストは故郷･熊野の私的記憶を作品化。底知れぬ現代音楽の深みを観客に提供した。

©羽鳥直志

©中川幸作

日本音楽の源流の古典と現代曲を体感

聲明（しょうみょう）―鎮魂の祈り
2019年3月2日
愛知県芸術劇場コンサートホール

日本の宗教音楽「聲明」の公演には米3都市ツアーの経歴もある「聲明の会･千年の聲」が出演し、日本最古の聲明曲と東日本大震災を契機に創られた現代聲明を披露。地域のテレビ局との共同主催につき、連携して効果的な広報展開もできた。聲明のほか雅楽、和歌などを学ぶ関連講座も開催。

世界のトップに君臨するカルテットと世界的ダンサーのコラボレーション

アルディッティ弦楽四重奏団×小尻健太
2019年12月1日
愛知県芸術劇場小ホール

グラミー賞ノミネート経験もあるアルディッティ弦楽四重奏団が、元ネザーランド･ダンス･シアターの小尻健太と共演。世界で活躍する2組は刺激的かつ上質なステージで会場を沸かせた。また、当劇場の企画で地域に受け入れられてきた「現代音楽×コンテンポラリーダンス」という組み合わせは観客層の融合も促した。

上記に加えて開催（現代音楽）
大量の創作楽器が登場し、観る人に創作の意欲を提供。
マウリシオ･カーゲル『アクースティカ』 ほか

©細倉真弓

オランダを拠点とするピアニストが故郷、ジェンダー、宗教を極私的に描いた作品

向井山朋子『KUMANO』（熊野）
2021年10月22日･23日
愛知県芸術劇場小ホール

ピアニスト･美術家･アートディレクターの顔を持つ向井山朋子が、映像インスタレーションとピアノ演奏のパフォーマンスを発表した。オランダ在住の向井山は故郷･和歌山県熊野を題材に、現実と架空を極私的な視点で表現。8年ぶりの愛知公演に観客も歓喜した。

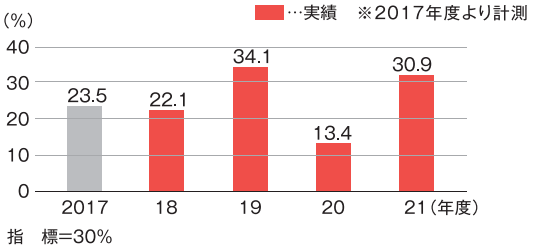
舞台芸術の裾野を広げることで、より豊かな感性を育み、次世への継承・発展へ

当劇場はあらゆる人を「劇場の顧客」として迎え入れる取り組みを重要なミッションとしている。より多くの人が舞台芸術を享受できるよう、年齢や障がいの有無、舞台への興味・関心に合わせてプログラムの充実を図り、裾野を広げてきた。

柱となる「ファミリー・プログラム」、「劇場と子ども7万人プロジェクト」では、市町村劇場や教育機関との連携を密にすることが不可欠で、県の施策である「あいち文化芸術振興計画2022」に沿って推進。コロナ禍で当劇場主催公演が全て中止となった際も劇場と子ども7万人プロジェクトは、働きかけを積極的に進め、賛同する市町村とパートナー宣言を行ってきた。2021年度には遠方の奥三河を含む5市町村と連携して公演を企画した。また、自主事業全体では若年層の来館者数も上昇傾向にあり、未来の舞台芸術ファンの拡大に貢献している。

そして「開かれた劇場」としてバリアフリー対応の充実はもちろん、アートによるソーシャルインクルージョンをテーマにした取り組みも行なっている。19年度にはイギリスの先進的劇団を招聘し、ワークショップやアウトリーチ、地域のNPO法人などを交えたシンポジウムを開催。22年度には同劇団の来日公演を予定しており、新しい観客との出会いが期待できる。

アウトカム指標 U25（25歳以下）の来場者率の推移



ファミリー・プログラム

当劇場にて開催（市町村劇場版：P16参照）

25歳以下の来場者数も初めて来場された人の割合もコロナ禍当初は落ち込んだが、気軽に足を運べる見学企画は子どもから大人まで幅広く好評を得た。またオンラインの活用でも新たな顧客開拓の可能性が広がっている。

アウトカム指標 ファミリー・プログラムの開催

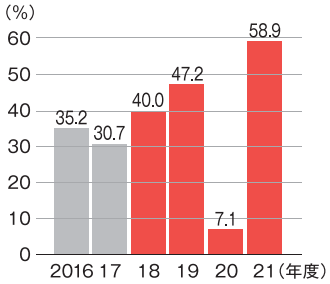
年　度	2018	19	20	21	22
実　績	1期	1期	1期	1期	2期を予定

指　標=2期

ファミリー・プログラムとは？

夏休みを中心に開催する、家族のためのフェスティバル。家族で楽しめる催しが充実しており、劇場初心者の人でも安心。公演のほか、子ども向けの劇場ツアーやワークショップも実施した。22年度からGWにも行う予定。

初めてファミリー・プログラムの鑑賞公演に来場した人の割合



©とりやま ゆり

より多くの人に舞台芸術をより知ってもらうために開催した無料イベント

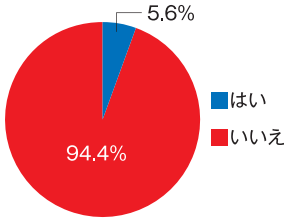
愛知県芸術劇場オープンハウス

2021年5月8日
愛知県芸術劇場大ホール
自由見学エリア:舞台上、ホワイエ、客席、ビュッフェ ほか

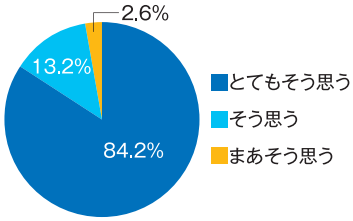
当劇場大ホールはグランドオペラやバレエを上演可能な日本有数の舞台機構を備えているが、鑑賞経験があまりない人にとっては遠い存在かもしれない。そこで「愛知県芸術劇場オープンハウス」を2019年度に初開催。その後に開催した21年度のアンケートでは多くの人が劇場に親しんでもらえるきっかけとなったことが伺える。舞台や客席、楽屋・奈落を無料見学できる機会をつくり、ミニイベントやスタッフによる見学ツアーも実施した。22年度は内容をさらに充実させ、GWのファミリー・プログラムとして実施予定。

参加者の動向

前回のオープンハウス（2019年5月）には来場されましたか？



オープンハウスに参加して、劇場にまた来てみたいと思いましたか？



21年度オープンハウスアンケートより

03 | 普及教育プロジェクト

©とりやま ゆり

子どもたちに劇場に親しみをもってもらい、文化芸術体験の導入口となる

げきじょうたんけんツアー
愛知県芸術劇場小ホール（2018年8月1日）
大ホール編（19年7月23日）
大ホール編・オンライン版（20年）
コンサートホール編&オンライン版（21年7月30日）

「げきじょうたんけんツアー」は普段は見られない劇場の裏側を無料見学できる人気企画。スタッフ誘導のもと出発。各ホールで実施しながらオンライン版も製作した。ドキドキ感とともに劇場への興味を引き出してきた。

オンライン版・大ホール編（20年度）はこちら!

※2025年3月頃まで配信

その他のイベント ファミリー・プログラム

日生劇場ファミリーフェスティヴァル2021
物語付きクラシックコンサート『アラジンと魔法の歌』
音楽ワークショップ「おもしろいコトをやろう!」
ダンスワークショップ「妖怪になって踊ろう!」　ほか

参加した子どもたちの声

19年度（大ホール）より

「いろんな秘密の場所が見られて、楽しかったです」

「奈落、楽屋がよかったです」

「とっても楽しくてワクワクする企画をありがとうございました」

21年度（コンサートホール）より

「パイプオルガンの演奏は生で聞けてYouTubeで見るよりもずっといい音だと思いました」

「プロじゃないと入れない場所をたくさん見せていただき感動しました」

「本当に感動しました。中に入れるなんて!」

AICHI 劇場と子ども7万人プロジェクト

アウトカム指標 プロジェクトの来場者数の推移

年　度	2016	17	18	19	20	21
実　績	3,628人	2,278人	2,193人	4,051人	4,415人	10,838人

指　標=年7万人
※当劇場主催・共催・パートナーシップの市町村（20年度～）の累計

県内の小・中学生を劇場に招待するプロジェクトは自治体や市町村劇場とともに実施。当劇場と自治体が連携して公演を開催してきた。コロナ禍で公演の機会は減少したが、パートナーシップの締結は進み、子どもたちの未来を照らすサポートの輪は広がり続けている。

劇場と子ども7万人プロジェクトとは?

愛知県芸術劇場では「子どもたちに一度は劇場で舞台芸術を体験してもらいたい」という思いから、2015年度から「劇場と子ども7万人プロジェクト」を始動。子どもたちを劇場に招待し、良質な作品に触れてもらうことで文化芸術体験の充実を図っている。県内の小・中学生の1学年あたりの人数が約7万人であるため「7万人」を指標に掲げた。

愛知の将来を担う子どもたちを劇場に招待し、良質な舞台芸術に触れてもらう芸術文化体験

愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室2021/ニッセイ名作シリーズ2021 オペラ『ラ・ボエーム』
2021年10月28日
愛知県芸術劇場大ホール

多彩なジャンルの鑑賞教室を提供することで自治体や市町村劇場への理解も深まり、子どもたちは多様な舞台芸術体験があることを学ぶ。まばゆい光景は心に深く残り、新たな思考や感情の気づきにつなげる子も多い。2021年度のオペラ鑑賞教室には中学校12校・特別支援学校1校合わせて約1,500人の生徒と引率教員が来場。このほか海外進出したダンスとラップ『ありか』（P6参照）や、SPAC-静岡県舞台芸術センターと共同企画した演劇『寿歌』等でも実施した。

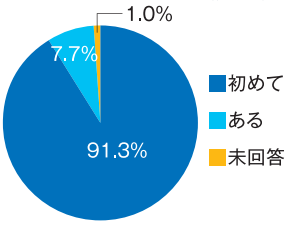
©中川幸作

©中川幸作

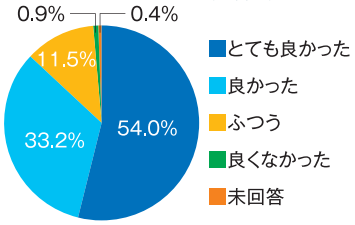
©中川幸作

劇場と子ども7万人プロジェクト　アンケート結果　愛知県芸術劇場オペラ鑑賞教室2021／ニッセイ名作シリーズ2021 オペラ『ラ・ボエーム』より

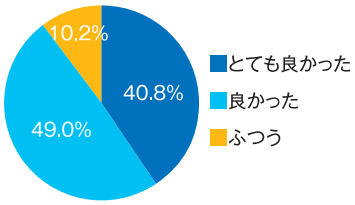
【中学生】オペラ鑑賞の経験はありますか？



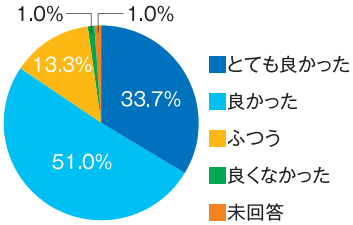
【中学生】公演を鑑賞してどう思いましたか？



【教員等】公演を鑑賞してどう思いましたか？



【教員等】芸術鑑賞教室としてどうでしたか？



パートナー宣言

プロジェクトの趣旨に理解と賛同を得られた自治体や教育委員会、市町村劇場とは、関係強化を目指してパートナーシップ協定を締結。一人でも多くの子どもが劇場で舞台芸術に触れられるよう、地道に輪を広げている。

「劇場と子ども7万人プロジェクト」には自治体や教育委員会、市町村劇場の協力が欠かせないことから、県内独自のパートナーシップ協定を制定。当劇場と共催が可能であったり、独自の鑑賞事業に取り組んでいたりする市町村を「パートナー」と位置づけることを宣言した。2021年度までに16のパートナーと協定を結び、プロジェクト推進の大きな支えとなっている。今後も歩みを止めず、ネットワークの拡大を目指す。

7万人プロジェクト
パートナーシップ協定の推移

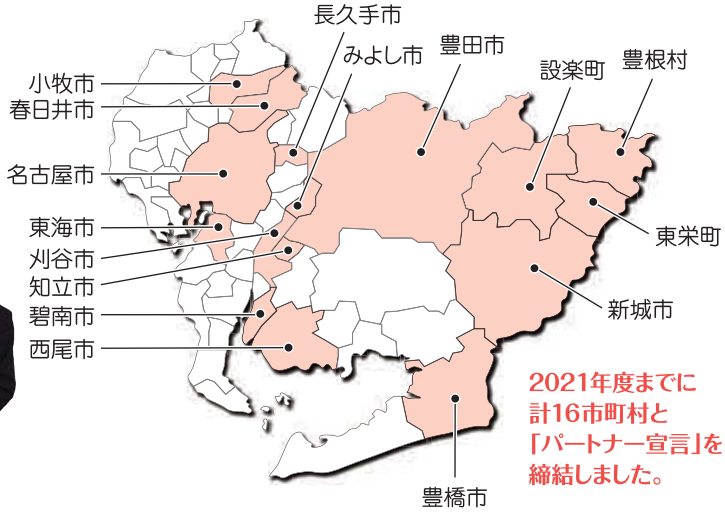
年　度	2020	21
自治体	計11	計16

※2022年3月現在、県内54の内16市町村とパートナシップ協定を締結している。

知立市教育委員会と
締結した際の記念撮影

愛知県芸術劇場 × パートナー市町村

愛知県芸術劇場 主　催	愛知県芸術劇場 市町村(教委)・市町村劇場 共　催	市町村(教委)・市町村劇場 主　催



2021年度までに
計16市町村と
「パートナー宣言」を
締結しました。

パートナー宣言が実現したことで、同時に県内5つの自治体との連携につながった

Australia ⟷ Japan ONLINE

日本とオーストラリアの
オンライン稽古の様子

2021年度 愛知県芸術劇場
舞台芸術鑑賞教室『小さな島とエヴァ』
（日本人版）

2022年1月14日　西尾市文化会館（西尾市）
19日　愛知県奥三河総合センター講堂（設楽町・東栄町・豊根村）
21日　【中止】新城文化会館（新城市）

パートナー宣言の積極的推進はすぐさま反応につながり、2021年度の終盤に5つの自治体と連携公演を企画。オーストラリア発、演劇とアニメーションが入り交じる『小さな島とエヴァ』はコロナ禍で来日できなかった劇団と協議し、日本人版を製作。間近で観た子どもたちは一様に目を輝かせた。会場は結果2箇所となったが、西尾市のほか県の山間部に当たる奥三河エリアの設楽町・東栄町・豊根村の子どもたちが鑑賞。本来は2020年度に実施予定で中止になったツアーが、結果的に実現できた。

西尾市公演の様子

普及啓発対象者別

障がいがあっても一緒に楽しめるプログラム Everybody

「あらゆる人に開かれた劇場」を目指す中で、地域の障がい者団体と連携。当劇場主催公演では障がいがあっても一緒に鑑賞できる取り組みを様々に実施してきた。加えて2019年度には、アートによるソーシャルインクルージョン（社会包摂）の先進的な取り組みをしているイギリスの劇団「オイリー・カート」を招聘。芸術監督と音楽監督を中心としたワークショップ、アウトリーチ、シンポジウムを開催。22年度には同劇団が来日し、知的障がいのある子どもとその家族や介助者なども一緒に楽しめる体験型のパフォーマンスを上演する予定。

アートによるソーシャルインクルージョン 誰もが劇場で芸術を享受できる環境を目指して

ソーシャルインクルージョン・プログラム
「イギリスのOilyCartのメンバーと多感覚パフォーマンスを創ろう!」～ワークショップ＆ショーイング～

シンポジウム「アートとソーシャルインクルージョンとは」～実践・課題・未来～

2020年1月21日～25日
愛知県芸術劇場中リハーサル室 ほか

Ellie Griffiths（演出家・OilyCart芸術監督／右）とMax Reinhardt（作曲家・OilyCart音楽監督）

アートによるソーシャルインクルージョンをテーマにした取り組みとして、2019年度にイギリスの劇団オイリー・カートを招聘。同劇団は知的障がいのある子どもや家族が一緒に楽しめるパフォーマンスで知られ、音楽家やパフォーマーを対象としたワークショップとアウトリーチを実施した。また、県などと連携して福祉・教育現場で活動する人を対象としたシンポジウムも開催。翌年度は同劇団と日本人アーティストによるパフォーマンスを制作予定だったが、渡航制限により中止（延期）。ただし、代替企画でアートとコミュニケーションに関して多様な視点から考えるワークショップを実施。以降継続してオイリー・カート公演実現を目指しつつ、環境整備に励んだ。なお、現在は2023年1月に同劇団の来日公演を予定している。

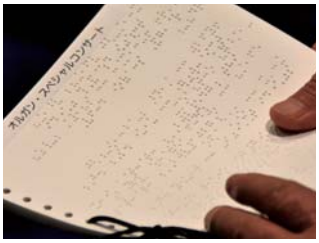
安心して劇場で芸術に触れられるための環境づくり

障がい者団体「社会福祉法人名古屋ライトハウス」「特定非営利活動法人名古屋難聴者・中途失聴者支援協会」と連携してお客さまには日本語字幕、ヒアリングループ等の取り組みや、職員には研修を行なっている。2019年度からソーシャルインクルージョンのプログラムを開始。実演家、演出家、制作者、地元団体と行政の事例紹介を含めたディスカッションや、シンポジウム等を開催。21年度はアートとコミュニケーションをテーマに、オンラインゼミを開催。遠方からも参加があり、障がいの有無に関わらず主体的に共生社会について話し合う場が設けられている。

観劇・鑑賞サポート 自主事業の一部で情報保障の取り組みを行っている。

日本語字幕

聴覚障がい者には日本語字幕を用意。オペラでは舞台両脇などに表示し、演劇では個別のタブレットに、セリフはもちろん音楽や効果音の説明も入る。



点字プログラム

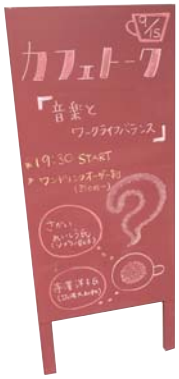
視覚障がい者には、来場者全員に配布されるプログラムを点字翻訳して提供。公演の概要や曲目、解説などを案内している。なお、公演前の舞台説明会や台本などの事前送付なども行なっている。

ヒアリングループ

補聴器を使用している難聴者には、磁気システムを利用したヒアリングループを設置して聴こえを補助している。主に、音が作品の重要な部分を占める音楽やダンスの公演で実施している。

触れる舞台模型

視覚障がい者向けには、触ってもいい舞台模型を製作。これを使った開演前舞台説明会では、ストーリーや演出とともに、装置や美術など含めた空間全体のイメージも感じてもらえるよう努めている。



普及啓発対象者別

芸術入門者からコアファンまで

舞台芸術の鑑賞者には、ビギナーや長年愛好してきたコアファンもいる。当劇場は鑑賞者の年齢や状況、目的に合わせて事業にグラデーションを持たせ、多様な層に向けて普及啓発を行ってきた。

入門者のためのプログラム Beginners

飲み物片手に和やかな雰囲気で、舞台芸術の魅力を語り合う

カフェトーク　ゲスト×観客で考える舞台芸術の楽しみ方
2018年度:6回　2019年度:2回　計8回実施
愛知芸術文化センター地下2階 アートプラザ内 喫茶アルス

複合施設である愛知芸術文化センターの特性を活かし、地下にある喫茶で連続イベントを開催。「ゲスト×観客」で舞台芸術の楽しみ方を考えるカフェトークは2016年度から続いており、初級者を対象にリラックスした雰囲気で展開してきた。ジャンルが多岐にわたり、ゲストも美術家、劇作家、建築家、映像作家など幅広いことでも人気を博した。

受講者の声

「再演や観客の声について話があって興味深かった」

「ゲストの舞台芸術への思いがあふれ出すようなトークに参加できた。新たな発見が沢山あった」

ゲネプロ(本番前のリハーサル)の観劇・観賞・質疑で10代の感性を養う

中・高校生ゲネプロ招待
2018年度:3回　19年度:3回　20年度:1回
21年度:1回　計8回実施
愛知県芸術劇場大ホール／小ホール

公演前日のゲネプロに中学・高校生を招待。上演団体の芸術責任者や当劇場プロデューサーが進行役を務め、作品が創られる過程の紹介などを行なってきた。10代が舞台芸術に触れることで鑑賞の楽しみや創造の面白さ、制作の裏側を知れる点で好評。劇場初体験の人も、部活や専攻で舞台に関わる人も幅広く参加している。

学生からの声

（**藤原歌劇団『リゴレット**』より抜粋）

「沢山学んだ事があったので、自分の声楽にも活かしていきたいです。そしていつか私も舞台に立てるような歌手になりたいと改めて思いました!」

「舞台監督の動きが見えて、どんな指示を出されているのか気になりました。公演する上での必要な役割、動き、進め方についても学んでみたいです」

（県内高校　音楽科生徒）

コアファンのためのプログラム Expert

ダンスのこれまでとこれからを講座やWSで多角的に学び、ダンスの在り方を探求する

ダンス・スコーレ
年1回実施　※2019年度は中止。
愛知芸術文化センター　アートスペースA
ほか

ダンサーや研究者、批評家、プロデューサーがナビゲーターを務め、歴史を紐解きながら講義やデモンストレーションを行うコアファン向け企画。各時代の表現手法や変遷について知識を高め、実演を観ることでより深く楽しむことができる。2020・21年度は、若手研究者たちと当劇場が共同で特別講座のシンポジウムを開催。約4時間のトークを展開した。

聴講者の声

（2021年度より）

「ダンスは大好きでよく観る機会はありますが、研究という軸・視点でダンスに触れる機会はなく、新鮮な経験でした」

「舞台芸術の背後にある研究の現在地を知る機会を作っていただけたのが、とてもよかった。今後もこうした企画を希望します」

作品を観る術を学び、他者に伝えるスキルを身に着けることで、地域で発信する人を増やす

鑑賞&レビュー講座
2018年度:8回
2019年度（うち1回はプレ企画）:8回
2020年度（オンライン実施含む）:8回
2021年度（オンライン実施含む）:6回
計30回実施
愛知芸術文化センター地下2階 アートプラザ内 ビデオルーム・オンライン

2019年度の受講生レビューはこちら!

普及啓発と人材養成の両面を持つ講座。作品の魅力を言葉で伝え、他者と共有するためのコミュニケーターを発掘している。講師・ナビゲーターは現役ライターや批評家、評論家。基礎知識の講座・鑑賞・ライティングを基本としている。

ナビゲーターの総括

竹田真理
（ダンス批評）

（2019年度より・抜粋）

今回、初の試みとなった連続の「鑑賞&レビュー講座」を最後まで走り抜いた受講者の方々は、年齢も職業も舞台芸術の鑑賞経験もさまざまな7人、講座の第一期生です。7回に渡る講座では、観劇の直後に感想をシェアし合い、書いた原稿を持ち寄って批評し合い、とにかくよく議論しました。回を重ねるごとに言葉が開拓され、それによって舞台を見る目の解像度が上がり、思考が深まる。自身の見方を疑い、異なる視点を得る。そんな循環が起きていたように思います。ナビゲーターとしてこの場に関わった私にも刺激となる得難い経験でした。

04 | 連携・交流プロジェクト

市町村劇場・アーティスト・文化団体とともに地域全体の文化力を高めることで、広域の文化振興を図る

地域の拠点劇場として役割を担う当劇場は、市町村劇場・アーティスト・文化団体との連携や交流を積極的に図ってきた。関係が強化されることで、プロデュース公演の県内ツアーや「劇場と子ども7万人プロジェクト」も拡充。コロナ禍には「JAPAN LIVE YELL project@AICHI」も立ち上がり、圏域全体の文化力向上にも資している。

人材養成事業は、中部圏の人材や情報が双方向に交わるプラットフォームとして機能。5つの研修プログラムによるスタッフ人材養成と、アーティスト人材養成の両輪で、地域全体の芸術活動の振興、アーティスト活動の環境整備につなげることができた。また、勅使川原三郎芸術監督は就任前から地元バレエ団と意見交換する懇談会を開催。愛知の文化的資源であるバレエダンサーを起用する事業が拓かれ、2021年度には監督が演出・振付を担い、東海圏ゆかりのダンサーが出演するダンス『風の又三郎』として実を結んだ。

ファミリー・プログラム 市町村劇場で開催

ファミリー・プログラム（P11参照）は市町村劇場でも開催。海外の人気作品、当劇場プロデュースの新作など内容も充実。市町村単独では難しい公演を中心にサポートしてきた。着実に進めているネットワークの強化はコロナ禍にも活かされ、急きょ新制作した公演の県内ツアーが実現した。

アウトカム指標 市町村との連携事業の推移（2022年2月現在）

年度	2016	17	18	19	20	21
事業	2	8	8	7	6	5

指　標=8事業

県内9つの市町村劇場と連携・ツアー！約2,500人に国際的人気のパフォーマンスを届けた

スペインの海と風！みんなで楽しむ体験型のパフォーマンス

『LOO（ルー）』
2019年
7月31日
半田市福祉文化会館（雁宿ホール）
8月2日
幸田町民会館つばきホール
8月4日
あま市美和文化会館
8月6日～8日
愛知県芸術劇場小ホール
8月10日
小牧市市民会館
8月12日
名古屋文理大学文化フォーラム（稲沢市民会館）中ホール
8月15日
豊川市文化会館大ホール
8月17日
碧南市芸術文化ホール シアターサウス
8月20日・21日
名古屋市瑞穂文化小劇場
〈ワークショップ〉
7月24日　新城つくで交流館
計10会場・23公演、1ワークショップ

舞台で使用された道具に触れる体験も実施。名古屋市文化振興事業団と技術連携

世界中で人気のパフォーマンス集団がスペインから来日。ダンスや演劇、サーカスなどが入り交じった本公演は、初めて舞台芸術を鑑賞する子どもに向けた作品だ。言葉を用いないノンバーバルのパフォーマンスで、時間は約30分。極力近くで観られる趣向も子どもたちを喜ばせた。なお、新城市ではワークショップも実施。この県内ツアーは、2017年度から連携協定を結んでいる名古屋市文化振興事業団と協働で実現。若手スタッフのスキルアップにもつなげた。

各市町村劇場からの声（抜粋）

「ファミリープログラムも3年目となり、お客さまからは『次はどこの国がくるの？』と尋ねられたりなど、浸透してきたのではと感じられました」

「特殊な装置と、複雑な場内誘導が必要な公演で、初めは心配していましたが、愛知県芸術劇場の皆さまはじめ、名古屋市文化振興事業団、うりんこ劇場の皆さまのお力でスムーズに公演を進める事ができました」

その他の公演

日本初上陸したカナダの現代サーカス集団のパフォーマンス
シアターサーカス「マシーン・ドゥ・シルク」
2018年8月5日　小牧市市民会館

日生劇場の人気のお芝居&コンサートが登場
物語付きクラシックコンサート『アラジンと魔法のランプ』
2018年8月25日　春日井市民会館

2020年のコロナ禍においても連携は健在。海外招聘は断念したが、ソーシャルディスタンスの演劇をいち早く創作・発表

『どうする!? アンデルセンさん!』
2020年8月5日・8日・9日
愛知県芸術劇場小ホール
8月7日
名古屋市千種文化小劇場
8月15日
名古屋市瑞穂文化小劇場
8月20日
幸田町民会館つばきホール

触る可能性がある場所は丁寧に消毒

コロナ禍で予定されていた海外招聘公演が6月に中止を発表。代わる体験型パフォーマンスを新たに制作。三重県に拠点をおく第七劇場の鳴海康平がアンデルセン童話を題材に演出した。マスクを衣裳に取り入れたり、短時間かつ人数制限を取り入れるなど、新型コロナ対策を作品にも盛り込み、子どもたちや保護者が安心して楽しめるよう工夫し、3つの市町村劇場でツアー公演。日頃のネットワーク強化の成果が現れた。

市町村劇場と芸術団体を結び、コロナ禍において より多くの人に芸術を届ける役割を果たした

JAPAN LIVE YELL project@AICHI 2020-21

コロナ禍において生の芸術文化に触れる機会が大きく制限される中、多くの人があらためてライブの醍醐味を実感できる機会づくりを目的に、当劇場は「JAPAN LIVE YELL project」に参画。県内の市町村劇場や芸術団体・実演家団体に声掛けし、2020年度・21年度にわたって数多くの公演を開催した。この取り組みに来場者をはじめ関係者からも喜びの声が届き、人々の芸術文化への関心や情熱を再び高めることに成功した。

JAPAN LIVE YELL projectとは?

コロナ禍でダンス・音楽・演劇など文化芸術活動に制限がかかる中、ライブの醍醐味に触れていただくことを目的に2020年と21年に実施したプロジェクト。文化庁の委託を受け、日本芸能実演家団体協議会が全国の文化芸術団体と連携して「ライブから人々へのエール」を広く発信した。

主な公演／イベント

名古屋・尾張プロジェクト

公立ホールや民間劇場などの8会場で、幅広い世代に向けた多種多様な演目を展開。能・狂言、子どもでも楽しめる演劇やダンスのほか、アマチュアを中心とした公演も行い、「実施したい思い」も支援した。

©羽鳥直志

三河プロジェクト

豊橋市の小学校の生徒を招待して、愛知県奥三河を拠点とする和太鼓グループ「志多ら」のコンサートを開催。会場の穂の国とよはし芸術劇場　PLATと学校を結ぶ送迎も手配した。また、豊田市では高校生以下無料の一般公演を開催した。

久屋ぐるっとアート連携プロジェクト

久屋（栄北）エリアの施設や団体が連携して開催するアートイベント「久屋ぐるっとアート」（P21～参照）の期間中に公園で金管五重奏のコンサートや人形劇、有松・鳴海絞りの体験などを行った。屋外コンサートは通りすがりの人の興味も集めた。

あいちオーケストラフェスティバル

プロオーケストラによる特別演奏会を計8回開催。愛知室内オーケストラ、セントラル愛知交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団が会場を分けて出演した。

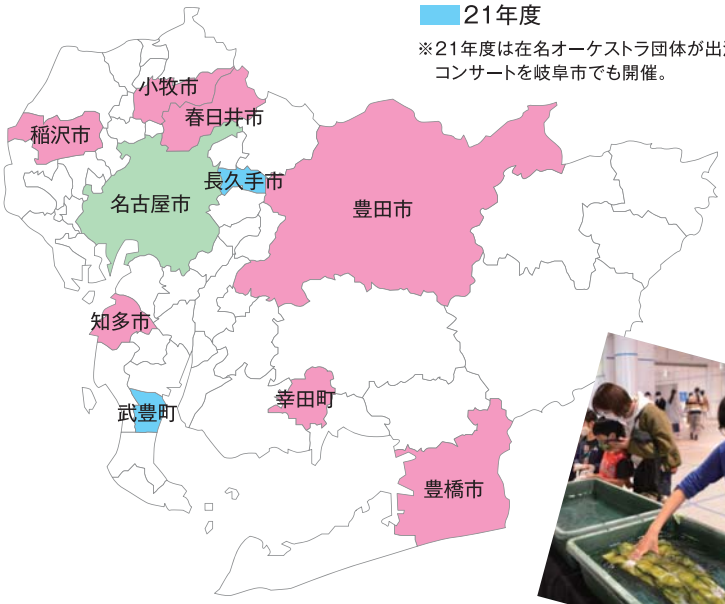
©中川幸作

©中川幸作

公演開催地

- 2020・21年度
- 20年度
- 21年度

※21年度は在名オーケストラ団体が出演するコンサートを岐阜市でも開催。



久屋ぐるっと
アート2020
連携プロジェクト
有松・鳴海絞り体験

JAPAN LIVE YELL project@AICHIの公演と来場者

年　度	2020	21
実施公演数	35公演	16公演
来場者数（オンラインを含む）	22,000人以上	8,100人以上

20年度はスタッフ・出演者のべ1,100人以上、21年度は舞台芸術に関する51団体・事業者が参加。

来場者の声

「コロナで今年コンサートを控えておりましたが、思い切って応募させていただきました。中へ入りましたら、席も対策されていて、びっくりしました。この感じならぜひまた来たいです」

「コロナ禍でもこのようなイベントを企画され、出演者の方々、会場のスタッフさん、企画に携わった全ての皆さんに感謝致します」

連携した劇場からの声

「県内を巻き込み、大いに刺激を与えていってほしい。市町村だけではなかなかできないことを一緒に企画してもらえるとありがたい」

「今回のような、自主事業の公演企画や開催における連携をしたい」

「あいちオーケストラフェスティバルは、元気が出る企画でとてもよかった（感謝）」

「お客さま、出演者にとって素晴らしい企画であった」

04 | 連携・交流プロジェクト

地域のアーティストの社会減を鑑みて、地域で養成し、近い将来に活躍する人材を劇場で育てる

アーティスト人材養成事業

優れた表現者を養成するため、2018年度からアーティスト人材養成事業には一層注力してきた。公演事業に付随した形でワークショップや稽古の場を設け、国際的なアーティストの息づかいを間近で感じられる貴重な機会も若手に提供。勅使川原三郎芸術監督の就任が決まると、さらに新展開に入り、21年度に監督の演出・振付で東海圏ゆかりの若手バレエダンサーが出演するダンス『風の又三郎』公演が実現した。オーディション・ワークショップを通してバレエ団の枠を越えた交流・学びの機会も生まれた。

アーティスト人材養成とは？

地域のアーティストを地域で養成するため、当劇場ではダンス・音楽・演劇の様々な講座、ワークショップ、発掘・育成プログラムなどを実施。若い表現者がプロの薫陶を受けられる場を設けて知識や技術の向上を促し、次代の活躍が期待できる人材の新たな発信を目指している。

地元のバレエ団との懇談会を経て、東海圏にゆかりあるバレエ経験者たちと創りあげた初の取り組み

芸術監督・勅使川原三郎
演出・振付
ダンス『風の又三郎』
2021年7月24日・25日
愛知県芸術劇場大ホール

芸術監督の勅使川原三郎は就任前年度に地元のバレエ団と懇談会を開き、これを発端に本公演が誕生した。出演者は東海圏ゆかりのバレエダンサーを対象としたオーディション・ワークショップを経て選抜。稽古・創作期間も含め、勅使川原メソッドを学んだ若手たちは大いに刺激を受けた。なじみある物語が視覚化された舞台に、子どもも大人も釘づけ。ダンスファンにも驚きと歓喜をもたらし、2022年度の再演も決定している。

©羽鳥直志

ダンス『風の又三郎』懇談会から公演までの流れ

懇談会
2020年1月、東海圏のバレエ団関係者と懇談会を実施。当劇場に対する期待や要望を聞き、連携の可能性や方法について意見を交換した。

↓

オーディション
20年10月、出演者オーディション・ワークショップを実施。

↓

創作
20年11月から稽古開始。勅使川原芸術監督が信頼するダンサーの佐東利穂子がアーティスティック・コラボレーターとしても創作に参加。

↓

©羽鳥直志

公演
21年7月、ファミリー・プログラムのラインナップとして上演される。

初演を経た出演者の感想

自分とダンスと向き合い、改めて考えなおす機会となりました。同時に愛知の文化活動が、国内で、世界規模でみると、どのような感じなのかを知ることもできました。

様々なところのバレエ経験者と出会って、ともに新作のプロジェクトに臨んでいくことはとても刺激的で充実していました。

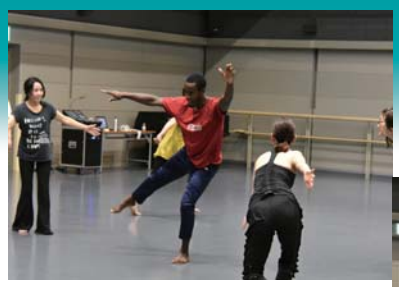
これまでのバレエ人生で経験したことのない事の連続で、毎回とても刺激的でした。

とても大きなことを学ばせていただきました。心から探し求めていたダンスを目の当たりにし、本気のダンスを追い求めていこうと決心できました。仕事とリハーサルの両立はハードでしたがそれ以上に得るものが多く、たくさんのサポートをありがとうございました。

海外で活躍するアーティストが講師を務める

振付家・ダンサー養成事業

元NDT（ネザーランド・ダンス・シアター）の小尻健太、元ザ・フォーサイス・カンパニーの島地保武ほか国内外で活躍する振付家・ダンサーを講師に迎え、4年間を通じて数多くのワークショップを実施してきた。その中でも2019年度に行ったローザスのワークショップは特筆に値する。ダンスシーンに革命を起こし、世界中のファンを魅了してきた彼らが、ビギナーコースとアドバンスコースに分けて地域のダンサーを指導。ローザスの来日公演に付随する形で実現した。



ローザスによる
ダンスワークショップ
↑ビギナーコース
→アドバンスコース

多くのアーティスト人材を養成

オルガン

中学生など将来プロの演奏家を目指す人を養成する

オルガニスト養成事業

鍵盤楽器を5年以上習っているプロ志望の中学生～20代の若手を対象に実施。公募で5名程度を選び、都築由理江（当劇場オルガニスト）が個別指導を行なう。期間は6か月で、月に1度ペースで行っている。

現代演劇

次代を担う劇作家と後世に残す戯曲を発掘する

AAF戯曲賞

後世に残すべき戯曲・劇作家の発掘を目的として2000年にスタート。大賞受賞作は翌年度以降に当劇場プロデュースで上演されることも第1回目から継続している。最終審査は公開で行ない、聴講者にも学びの場を提供。

現代音楽

音楽と身体表現の可能性を追求し、音の新たな表現を開拓する

サウンドパフォーマンス・プラットフォーム

音と身体を軸にして新たな表現に挑戦する実験ライブ。公募で選ばれたアーティストは、競演することで、お互いに感化されたり、ゲストアーティストからインスピレーションを得たりするなど、出演者の表現の幅を広げている。

オペラ

舞台上で必要なテクニックを学び、出演を目指す

愛知県芸術劇場合唱団訓練

当劇場プロデュースのオペラやコンサートに出演する合唱団員は、必要に応じてオーディション選抜。合わせて訓練も積極的に行なっている。ここからソリストも輩出しており、地域の声楽家の養成に貢献してきた。

地域のスタッフの社会減を鑑みて、対象者別・目的別に研修を実施し、地域全体のスキルアップにつなげる

スタッフ人材養成事業

全国から文化芸術関係者が集まる学びと交流の大会「劇場職員セミナー」や、「舞台芸術インターンシップ」、「学生インターンシップ」、「舞台芸術創造セミナー」、「ファシリテーター＆コーディネーター養成事業」、「舞台芸術お仕事ナビ」を展開。学生を対象とした少人数制・報酬型インターンシップも行い、全体を「舞台芸術人材養成ラボ」として統括してきた。2019年度は新型コロナの影響で参加者が減ったが、20年度には劇場職員セミナーの一部はオンラインでも実施され、例年並みの参加者数を記録。コロナ禍にも関わらず全体の数字は回復の兆しを見せた。

アウトカム指標 **舞台芸術人材養成ラボ参加者**（のべ人数）

年　度	2016	17	18	19	20	21
参加人数（のべ）	673	711	934	672	779	753

指　標＝800人（2018・19年度）
　　900人（20年度より指標を変更）

スタッフ人材養成とは？

舞台芸術におけるアートマネジメントや創造性を備えたスタッフの人材養成を目的とした取り組み。中部圏の舞台芸術の振興および、地域における文化芸術活動を担う学生、劇場職員等のスキルアップを図るため、2015年度から実施。文化芸術活動の環境整備につなげている。

研修の実施例

2018年度
講座「これがわかったらハンパないって！～便利かリスクか？ 音響・照明機器の遠隔操作～」
講師:亀本和利（株式会社ヤマハミュージックジャパン）ほか

2019年度
講座「2年目からの著作権講座」
講師:岡本健太郎（骨董通り法律事務所 弁護士）

2020年度
パネルディスカッション「知っ得！ 劇場の新型コロナ対策あれこれ」
コーディネーター:浅野芳夫
（愛知県芸術劇場 副館長兼劇場運営部長）

2021年度
講演「劇場が切り拓く動画配信の未来と挑戦」
コーディネーター:宮田 健
（名古屋市文化振興事業団 文化振興部主幹）

ほか

中堅スタッフ対象

全国の劇場と自治体を対象に、今求められる文化政策、技術、制作、広報、施設管理を、地方の劇場の事例から学ぶ

劇場職員セミナー

共催:名古屋市文化振興事業団

年に一度、全国の劇場スタッフや自治体の文化芸術担当者が愛知に集まり、3日間にわたって講座やシンポジウムを開催。主に中堅スタッフを対象として、各地の事例をもとにテーマが設けられているため、文化政策・技術・制作・広報・施設管理など多岐に渡る現実的かつ実践的な内容が毎回好評を博してきた。必要に応じて有識者も招き、専門性の高い課題にも踏み込めるのは大規模イベントならではの利点。2015年度から始まり、毎年のべ600人ほどが参加しており、コロナ禍にはオンラインも活用したことで、より広い参加が可能となった。

舞台技術・劇場運営

企画制作・広報

04 | 連携・交流プロジェクト

若手スタッフ対象

劇場の仕事に初めて就く人を対象に、県内の劇場が連携して、ベテランスタッフが講義・指導する

愛公文セミナー

共催:愛知県公立文化施設協議会

愛知の公立文化施設で初めて劇場の仕事をすることになった新任スタッフを対象に、ベテランのスタッフが講義や実践指導を行う本セミナーは、県内の劇場が連携して開催。劇場の専門用語やコードの8の字巻きなど、劇場スタッフに必要な知識・技術のイロハが学べる。

舞台芸術の業界に就職を希望している人対象

舞台の仕事に興味を持つ人を対象としたプログラム

インターンシッププログラム

舞台芸術に携わる仕事を志望中の学生や若者を対象に、インターンシップを実施。長期コースの「舞台芸術インターンシップ」、短期コースの「学生インターンシップ」は、ともに座学と実習を体験できる。また「舞台芸術お仕事ナビ」は劇場、イベント制作・運営会社、オーケストラ、劇団、放送局などが登壇。業界の仕事についてガイダンスを行った。

学生を対象にした2年間の長期コース

舞台芸術インターンシップ（企画制作コース・舞台技術コース）

舞台芸術に携わる仕事への就職希望者を対象に、2年にまたがるインターンシップを実施。座学と実習があり、基礎知識から現場経験まで各コースで専門的かつ実践的に学ぶ。

舞台芸術お仕事ナビ

舞台芸術の仕事に関心のある高校生以上の方を対象とした業界ガイダンス。中部圏の舞台芸術の会社・団体が自身の体験も交えながら仕事を紹介している。

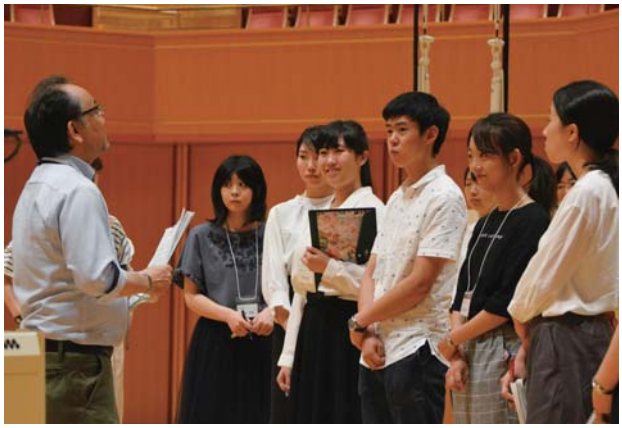
舞台芸術お仕事ナビ参加者（のべ人数）

年　度	2018	19	20	21
実　績	42人	50人	37人	35人

舞台芸術お仕事ナビの主な参加団体

- OFFICEリラン（制作・運営）
- 金井大道具名古屋JV（舞台技術）
- 株式会社サンデーフォークプロモーション（制作・運営）
- 劇団うりんこ（実演団体）
- 中部フィルハーモニー交響楽団（実演団体）
- 東海テレビ放送株式会社事業局（企画）
- 名古屋市芸術創造センター（劇場）
- ハンプトンジャパン株式会社（営業）　ほか

多くの分野、様々な立場の人材を養成



学生を対象にした3日間の短期コース

学生インターンシップ

高校生以上を対象とした本インターンシップは、3日間の短期コースながら実習もあり。当劇場の施設や事業、運営、広報などを知ることで就職先としての検討を促している。

ジャンル横断型の舞台芸術を創造する学びの場

舞台芸術創造セミナー

アーティストや制作者を対象として、新しい舞台を創造するための学びの場を提供。映像・音響などの先端技術を使いながら、各分野のトップランナーとともに創作を行う体験型の講座を開催している。

舞台芸術を多くの人に広げる担い手のセミナー

ファシリテーター&コーディネーター養成事業

アートと社会をつなぐ広場ラボ

演劇・ダンスなどの舞台芸術のワークショップを円滑に行うファシリテーターと、地域と舞台芸術をつなぐコーディネーターを養成する事業を2018年度から実施。アーティスト、教育関係者などの参加者たちが、社会課題について意見交換を重ねたり、アートを通じたワークショップの開発を行っている。

芸術の力を活用し、社会課題の解決に取り組むことで、地域に貢献する

当劇場は、愛知芸術文化センターのある久屋（栄北地区）の活性化に注力してきた。2018年には近隣の商業施設や文化団体等に声かけしてアートイベント「久屋ぐるっとアート」を始動。街の魅力の再発見と発信を行なった。翌年度も開催すると、参加団体数も来場者数も前回を大きく上回り、賑わい創出に貢献。「地域の劇場」として寄せられる期待とともに、劇場に対する見方の変化も感じられた。コロナ禍においては十分な対策を講じて各種イベントを展開。JAPAN LIVE YELL project@AICHI（P17参照）と連携して多彩さやボリューム感も増した。

また、障がい者や外国人、子育て中の人も文化芸術を楽しめる環境整備にも取り組んだ。行政機関の多文化共生関係部署には積極的なアプローチを図って連携。外国人住民向け、あるいは乳幼児と保護者向けのワークショップなどを実施した。あらゆる人が文化芸術を楽しめる環境づくりにまい進した。

都市の活性化

文化の日を中心に、アートを通じて久屋の街の魅力再発見を促し、活気を創出

久屋ぐるっとアート
2021年11月3日～7日
久屋（栄北）エリア
※2018年～同時期に開催。

愛知県芸術劇場のある久屋（栄北）エリアは名古屋市の中心的繁華街にあたり、複数の団体が各イベントを異なる時期に開催していた。そこで2018年に当劇場の声かけで「久屋ぐるっとアート」を開催。文化の日を軸とした日程にイベントを集め、街を回遊しながらコンサートやパフォーマンスなど多彩なアートが楽しめるように趣向を凝らした。以降、年に一度のペースで実施。人と人、人と場所が出会える秋の名物として定着しつつある。21年には愛知県立芸術大学、NHK名古屋放送局、カワイ名古屋、名古屋YWCA、日本芸能実演家団体協議会など21団体が参加した。栄エリアは現在、名駅（名古屋駅）エリアとの連携や役割分担を踏まえた再開発が進んでいる。久屋エリアもアートを通じた賑わいで存在感を発揮している。

参加団体の感想

久屋ぐるっとアート

（2021年・抜粋）

「普段はいらっしゃらないけど、芸術分野に興味をお持ちの方に来店していただくきっかけとなり、良かった」

「栄の街に賑やかさ、活気が戻る一日となったため、大変よかった」

「初年度より4年続けて参加させていただいていますが、年々、参加していることへの認知度が上がっているように思います」

「地域のイベントへの参加によって、連帯感が生まれるため、よかった」

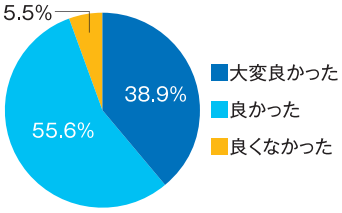
久屋ぐるっとアート　参加団体数の推移

年　度	2018	19	20	21	平均
団体数	20団体	25団体	26団体	21団体	23団体
イベント数	34	28	30	26	約30

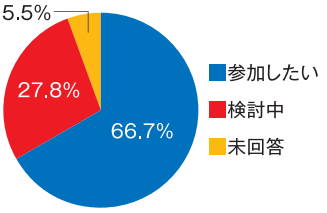
※採択前の実施なし。

久屋ぐるっとアート2021　参加団体データ

満足度（21年度）



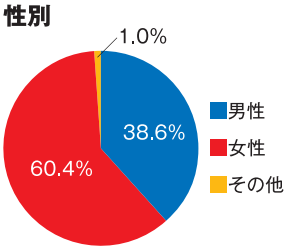
来年度の参加の意向（21年度）



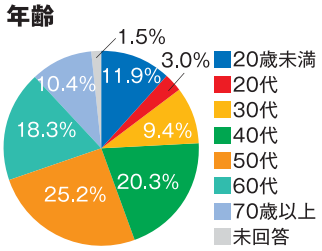
05 | 社会課題対応プロジェクト

久屋ぐるっとアート2021　一般参加者データ

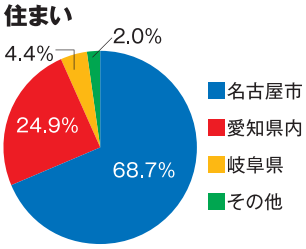
性別



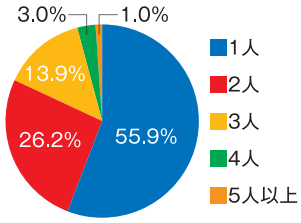
年齢



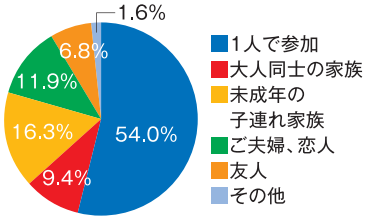
住まい



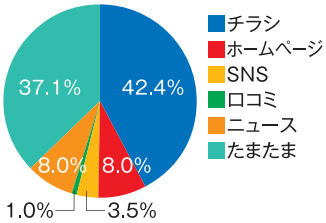
参加形態（人数）



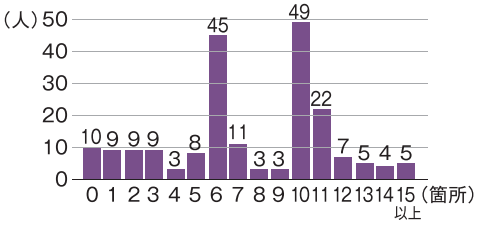
参加形態（関係）



情報ソース



会場を巡るシールラリーの回遊（全26箇所）



久屋ぐるっとアート　一般参加者データ

年　度	2018	19	20	21
参加人数（のべ）	46,000	244,326	57,821	12,735

アウトカム指標

栄北地区パフォーミングアーツイベントの開催

年　度	2018	19	20	21
実　績	1	1	1	1

指　標＝1　※採択前の実施なし。

2021年度イベント終了後の報告会であった感想や意見

良かった点

回遊企画のプレゼント交換に訪れた人は5日間で202人にのぼり、約45%の方が10箇所以上、そのうち約20%は11箇所以上のスポットを訪問。一方で、純粋に回遊を楽しむ人が増えた印象も受ける。パンフレットと回遊企画のシールラリーの台紙を分けたため、わかりにくいとの声もあったが、その分、豆知識の紹介やクイズを導入できたりと、新たな可能性も感じられた。

改善点

継続してきたことで「文化の日に久屋で行なわれるイベント」として認知されてきた手応えがあるだけに、配布物の活かし方などで、より街に溶け込むための工夫が必要。またスタッフとの交流に関する声も聞いており、「現場に足を運んでイベントを見る」「現場スタッフとコミュニケーションをとる」ことでニーズに応えられるような内容に発展させたい。

報告会の様子

子育て支援

親子、乳幼児向けのプログラムを通じて、ふれあいの場や0歳から芸術文化に触れる機会を拡充

©とりやま ゆり

乳幼児のいる家庭では育児に追われ、芸術文化に触れる機会が減ってしまうことも多い。当劇場では、小さな子どもたちにも保護者にも、音楽やダンスに親しんでもらえるプログラムを用意。年齢やライフスタイルに関係なく、豊かな感性を磨ける場が設けられている。

赤ちゃんと踊ろう!

ダンスカンパニー「プロジェクト大山」のナビゲートで乳幼児と保護者が身体を使った表現に挑戦。「ママ編」「パパ編」ともに笑顔があふれ、運動量もあって気分爽快。行政機関や地域のNPOと連携し、県内各所で実施。コロナ禍ではオンライン開催にも取り組んだ。

コロナ禍にはオンラインで開催

参加者の声（2021年度・抜粋）

パパ編

「リモートワークが多く、運動不足だったので、子どもと一緒に汗がかけて良かったです」

ママ編

「街に出かけるいいキッカケになりました。子どもと一緒に参加して動けるイベントはあまりないので、身体を動かせて気分転換になりました」

「子どもと劇場に行くのが初めてで、子どもにダンスを思いっきりやらせてあげることができて、とても良い時間でした」

愛知県芸術劇場 × 長久手市文化の家 0歳からの親子コンサート

2019年1月に当劇場と長久手市文化の家が連携して0歳児から鑑賞できるコンサートを開催。作曲家の今井智景が企画・司会・進行を務め、江頭摩耶がヴァイオリンとヴィオラで『きらきら星変奏曲』などを演奏。映像も導入し、子どもたちの感性を刺激した。

THE オルガンDAY（幼児向け）

当劇場が誇るパイプオルガンの音色や迫力を体感してもらうため毎年開催。子どもに親しみのある曲を選ぶなどプログラムも工夫している。8歳以上推奨の「子ども向け」と分けて実施。3歳以上推奨で、鑑賞デビューの機会にできるよう他の観客には理解を呼びかけている。

教育・多文化共生

コミュニケーション・プログラムを通して、年齢・性別・経歴・国籍などの違いを理解し、認め合える社会を

カラダを動かして！アートで交流！！

愛知県は東京都に次ぎ、国内で2番目に外国人住民が多い。日本語を母語としない人々も芸術文化に親しめるよう、行政機関と連携しながらコミュニケーション・プログラム等に力を注いできた。日本人も含め、あらゆるボーダーを越えて相互理解を深めるためにダンスや演劇の専門家を通じた企画協力を行っている。

愛知県多文化共生室「多文化子育てサロン」との連携 ダンスワークショップ

主催:愛知県　共催:愛知県芸術劇場
講師:ダンスカンパニー「プロジェクト大山」
時間:約60分

愛知県は2021年の時点で約27万人の外国人住民が暮らしており、それに伴って新しい家族やコミュニティが形成されている。そこで当劇場は愛知県多文化共生推進室が年間を通じて実施した「多文化子育てサロン」で企画協力し、ダンスワークショップを提案。アートの力を活かし、多様な文化的背景をもつ人たちの掛け橋を設けてきた。外国人住民の保護者の不安を少しでも和らげるために芸術を通してともに楽しめる機会を提供できれば、お互いを認め合い、生きていることを実感できるはず。当劇場は多文化共生社会に向けても役割を果たしてきた。

「多文化子育てサロン」とのこれまでの参加者実績

2018年度 犬山:22人
19年度 知立:56人　江南:42人　豊橋:21人
20年度 オンライン:19人
21年度 半田:28人　大府:37人　オンライン:52人

参加者の声

「私はダンスが好きなのでまた一緒にやりたいです」

「子どもがダンス好きで、はじめは恥ずかしそうでしたが、時間が経つにつれて楽しそうでよかったです」

演劇で共感！互いを理解！！

あいち多文化共生タウンミーティング

2020年1月19日
2021年1月16日（中止）
主催:愛知県

地域の国際化セミナー

2022年3月12日
主催:名古屋国際センター

地域の国際化セミナーの様子

ブラジルやペルーの人が多かった愛知県では近年、東南アジアの人々も増えている。その状況も踏まえつつ愛知県は「あいち多文化共生タウンミーティング」等を開催。2020年に豊田市で行なわれたタウンミーティングでは演劇ワークショップを実施した。22年3月に名古屋国際センターで開催された「地域の国際化セミナー」では、演劇教育・応用演劇実践家の飛田勘文による進行のもと、簡単な言葉のやり取りに始まり、最終的には一場面をグループごとに創作。多様なルーツを持つ参加者たちは言葉と身体を駆使した表現を通じ、互いの考えや気持ちをよりリアルに受け止めた。

その他の取り組み

YouTubeの英語・やさしい日本語訳

YouTubeで配信中の動画には英語の翻訳字幕のほか、やさしい日本語の字幕も付けることで、できる限り多様な人々に対応。

多言語チラシ

当劇場で開催される一部の公演では多言語対応のチラシを作成。英語のほか、ブラジルで使われるポルトガル語のチラシも配布した。またYouTube同様、やさしい日本語版もあり、芸術文化に触れてもらうためのきっかけを様々に提供した。

ポルトガル語チラシ

英語チラシ

06 | 雇用と財源安定化プロジェクト

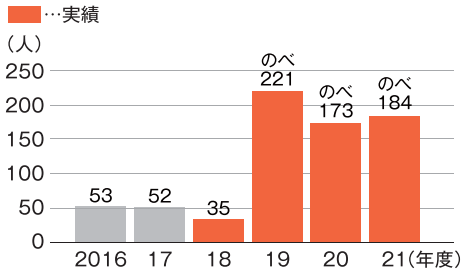
ミッションの実現のため、劇場マネジメント・自主財源の確保を行う

当劇場は、愛知県や国の公的機関等からも支援を受ける一方、独自でも財源の確保に努めてきた。芸術を愛する個人・法人を対象とした会員制度、法人等へのチケット団体斡旋では、物心両面から地域のサポートを得られている。また、ダンス・音楽・演劇各分野の企画制作を担う専任プロデューサー及び広報マーケティング職員を擁し、その経験の蓄積により事業展開している。これら職員は高い専門性を有する人材・地域に貢献する人材として、官学民各分野から研修講師や各種委員としての派遣依頼も多い。2020年度からは芸術監督を配置。21年度からは理事長兼館長の兼務を解消して専任館長（プロパー職員）を配置。劇場運営部・舞台技術部・企画制作部・広報マーケティング部・総務部の5部制をとり、より専門性を高めるべく企画制作部にはエグゼクティブプロデューサー職を設けた。安定した劇場運営のために今後も持続的な組織体制を整えていく。

雇用　人的資源の活用

外部研修を通して職員の専門スキル向上を図り、その人的資源を活用して、地域の大学や自治体の文化振興計画の策定に向けた職員勉強会、芸術大学の講座、民間が実施する若手育成プロジェクト意見交換会などに講師を派遣。なお、専門性・持続性が重要なポジションはプロパー職員化を進めている。

アウトカム指標 外部研修受講者の推移

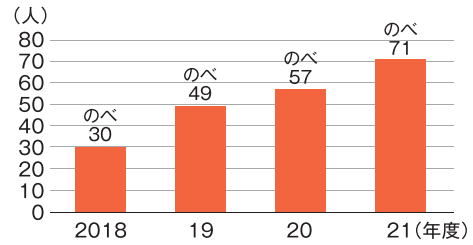


指　標=80人（18年度）
90人日（19年度より指標をのべ人数から人日（人工）に変更）

受講例（2021年度）

全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会（文化庁委託／オンライン開催）、舞台芸術広報研究会、メンタルヘルス研修、普通救命講習、公共劇場舞台技術者連絡会　ほか

職員派遣者の推移



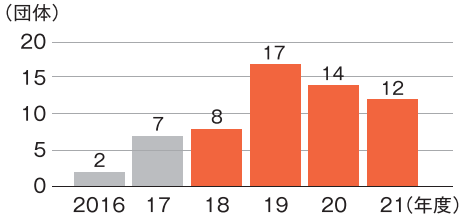
派遣例（2021年度）

名古屋芸術大学受託講座「劇場と舞台」（全15回）、静岡県公立ホール連携支援研修事業、北九州芸術劇場職員向け研修、三重県総合文化センター「学生インターンシッププログラム in そうぶん」　ほか

財源の確保

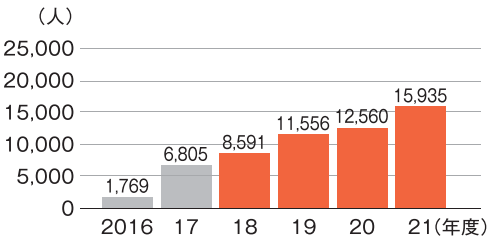
安定的な観客層を確保するため、主に2種類の方法でチケット販売を促進。個人を対象にした「愛知県芸術劇場メンバーズ会員」への販売とともに、法人・団体を対象にした斡旋販売も強化している。また「愛知県芸術劇場 賛助会員」制度を設け、2021年度から本格的に募集開始。新型コロナウイルス感染症の影響下においても順調に賛同が集まっている。

アウトカム指標 チケット購入団体数



指　標=18団体

アウトカム指標 愛知県芸術劇場メンバーズ会員数



指　標=20,000人

賛助会員制度（2022年度）

アドヴァンスコース

一般社団法人 愛知県浄化槽協会　極東証券　SEGASammy 文化芸術財団　大同特殊鋼　中衛工業株式会社　名古屋競馬株式会社　長谷川亨・歯科クリニック

ファミリー・プログラムコース

あいち航空ミュージアム　アーヴェル　赤西デンタルクリニック　木郷ステーション歯科

普及啓発プログラムコース

愛知県信用保証協会　赤西デンタルクリニック　樹園森　MUFG 三菱UFJ銀行

劇場による地域文化向上プロジェクト報告書

愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号
TEL:052-955-5506　　公式ウェブサイト　https://www-stage.aac.pref.aichi.jp
印刷:株式会社ティーエーシー　　発行:2022年3月